

## 2. 私たちの住む街の素晴らしさ

### 2-1. 六甲山地の豊かな自然の恵み

豊かな自然に彩<sup>いろど</sup>られた緑の森、六甲山は、四季を通して、私たちを楽しませてくれます。しかし、神戸港が開港した約130年前は、白い岩はだ<sup>ろしゆつ</sup>が露出し、荒れ果てた山だったといわれています。現在の緑あふれる六甲山は、100年前から先人たちの手によって、1本1本植えられ、自然にはぐくまれた木々によって再生したものです。今、私たちの目に映<sup>うつ</sup>る山なみは、長い歳月をかけてつくり上げた、かけがえのない神戸の財産です。

生育する樹種や生きものも非常に豊富です。古くから六甲山を越える道も多く、今ではこうした道が登山道や散策路<sup>さんさく</sup>として市民に活用されています。こうした道を散策<sup>おりおり</sup>すると、四季折々の草花などが楽しめます。



緑豊かな六甲山

## 2-1-1. 六甲山地の緑



縄文時代の六甲山地の植物は、シイ、カシなどの照葉樹林（つやつやした厚い葉を持つ樹木）でした。

六甲山地は緑豊かな山でしたが、社寺林以外は、薪を得たり草を刈ったりして、自分たちの力ではもともにもどれないほど、樹木が切り出されました。明治初期には地表が見えてしまうほどになりました。もともと崩れやすい性質を持つ六甲山地は、風雨にさらされ荒れ果ててしまったのです。

その後、明治35年（1902年）から始まった緑をとりもどすための工事によって、六甲山地は植物の宝庫となりました。

住吉川流域では、瀬戸内海自然公園特別地域内指定植物として、イワタバコ、ショウジョウバカマ、コバノミツバツツジ、チャルメルソウなどが確認されています。その他にも、六甲山山頂付近のブナ群落やお多福山のススキ・ネザサ群落が「貴重な自然」として現存しています。

これらの植物は、たいへん貴重なので採取はしないでください。



六甲山地の緑の歴史



### 六甲山地は昔、草木のない山だったって知ってた？

緑豊かな六甲山地は、人口が増えるにしたがって、多くの薪や草が切り出され、草木のない山になりました。その後、明治35年（1902年）から緑をとりもどすための活動が始まり、ヤシャブシ類、ニセアカシア、マツ類、スギ、ヒノキ、クヌギ、カシ類などを中心とした植樹を進め、現在のように緑を回復させています。

六甲山地では、1年を通して四季折々の草花<sup>おろおろ</sup>を見ることができます。

マップ⇒

2



四季折々の草花を観察してみよう！！

春

出典：神戸・六甲山系の森林 <http://www.rokkosan-shizen.jp/>



タムシバ



アセビ



ヤマザクラ



コバノミツバツツジ

初夏



ヤマツツジ



ベニドウダン



ウツギ



コアジサイ

夏



イワタバコ



アカショウマ



ノリウツギ



クサアジサイ

初秋



ホツツジ



ゲンショウコ



ヤマジノホトギス



センニンソウ

秋



ノコンギク



リンドウ



ヨシノアザミ



アキノキリンソウ

## 2-1-2. 六甲の水



六甲の水は「おいしい水」の代名詞として全国に知られています。六甲山地から流れ出る水は、コウベウォーターとも呼ばれ、不純物や有機分が少なく適度のミネラルを含み、飲み水として適しています。また、赤道を越えても腐らないと、世界の船乗りたちの評判を集めました。



## 私たちの街には、井戸がたくさんあったんだよ！

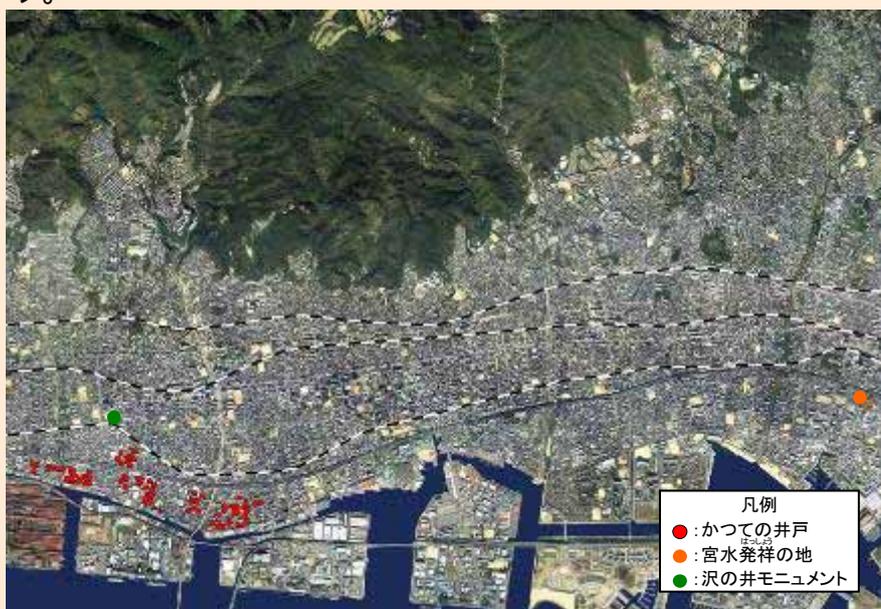
私たちが住む街には、多くの井戸がありました。現在、ほとんど井戸は残っていませんが、阪神御影駅の近くに「沢の井」と呼ばれる井戸が残っています。

井戸は大きな石造りで円形、わきに水神の祠すいじん ほこらがあります。昭和60年（1985年）阪神御影駅北側広場の整備に際して、沢の井にちなむモニュメントが住民や企業によって建てられています。

また、灘の神戸地区の酒造に使用されている地下水は、東の天上川から西の都賀川とががわの間の海岸部に位置する井水により供給されています。

歴史的に、灘酒の名声を全国に広めた要因として、宮水の使用が挙げられています。

江戸時代後期てんぽうの天保8年（1837年）、山邑太左衛門やまむら たざ えもんが西宮郷、梅の木井戸うめ きの井水が優れていることを発見し、これを仕込水に用いるようになり、灘では優秀な酒が造られ江戸の市場でも大好評となりました。この梅の木井戸が宮水発祥はっしょうの井戸といわれています。



かつての井戸の分布・図



沢の井のモニュメント

はっしょう  
ひ  
宮水発祥の地の碑

阪神御影駅の近くに井戸を見に行ってみよう！！

## 2-1-3. 住吉川周辺の生き物たち



六甲にはどんな生き物がいるのかな？

## 小動物

六甲山では、ニホンイノシシ、ニホンテンがほぼ全域で確認されています。



ニホンイノシシ



アカネズミ

その他六甲山に生息する小動物

- ・ノウサギ
- ・コウベモグラ
- ・キツネ
- ・ニホンリス
- ・タヌキ
- ・ヒダサンショウウオ
- ・タゴガエル
- ・カジカカエル

イノシシが殖えた最大の理由は、はげ山の目立った六甲山の緑が回復し、どんぐりの実る木も多く育ったためです。

## 鳥

六甲山では130種を超える鳥類が確認されています。住吉川流域でも43種の生息が確認されています。



カワセミ



ハイタカ

貴重な鳥（7種確認）

- ・カワセミ
- ・ハイタカ
- ・アオバズク
- ・アオゲラ
- ・ヨタカ
- ・キビタキ
- ・コゲラ

## 昆虫

六甲山では191科435種の昆虫が確認されています。8種が絶滅危惧種です。



ウスバカマキリ



ネブトクワガタ

貴重な昆虫

- ・ルリボシヤンマ
- ・シルビアシジミ
- ・ホンサナエ
- ・ゲンジボタル
- ・オオアメンボ
- ・トゲナナフシ
- ・ネブトクワガタ
- ・ウスバカマキリ

## 魚

アマゴ、カワムツ、オイカワ、カワヨシノボリなどが生息しています。



アマゴ



カワムツ



オイカワ



六甲の貴重な生き物をみんなで守ろう！！そのためには、どうしたらいいの？

## 2-1-4. 六甲山地の「道」（登山道・散策路）



六甲山には、「有馬道（住吉道）」<sup>ありまみち すみよしみち</sup>、「魚屋道」<sup>ととやみち</sup>、「石切道」<sup>いしきりみち</sup>などの道があります。現在も、登山道・散策路<sup>さんさく</sup>として利用されています。



有馬道



魚屋道



石切道



## どうして、魚屋道って呼ばれたの？

深江<sup>ふかえ</sup>や青木<sup>おうぎ</sup>の海産物を温泉場に運ぶ最短コースだったため、専ら「魚屋道」の名で呼ばれるようになりました。ちなみに、江戸時代から住吉の鉄道駅ができる明治ごろまで、この道を有馬道とも呼んでいました。その後、住吉駅から住吉川沿いを通して、六甲山に登る住吉道を有馬道と呼んでいます。

また六甲山から御影石<sup>みかげいし</sup>を切出し、運んだ道を石切道と呼んでいます。



私たちの街から有馬温泉までどのくらい時間がかかるか歩いてみよう！！

## 2-2. 私たちの街の暮らしの歴史

住吉川は、過去から今日に至るまで、脈々とその流れを絶やすことなく、私たちの街の暮らしや街の発展を見続けてきています。

住吉川をはじめ豊かな自然の恩恵を受け、文化・産業が発展し、古き良き時代の香りがいまに続く「お酒のふるさと」には、ゆったりと流れる芳醇ほうじゆんな時間が満ちています。

私たちが暮らしている街では、古い歴史をいろいろな場所で見、感じて、学べる資源がたくさん存在しています。



山田区民館横の復元水車

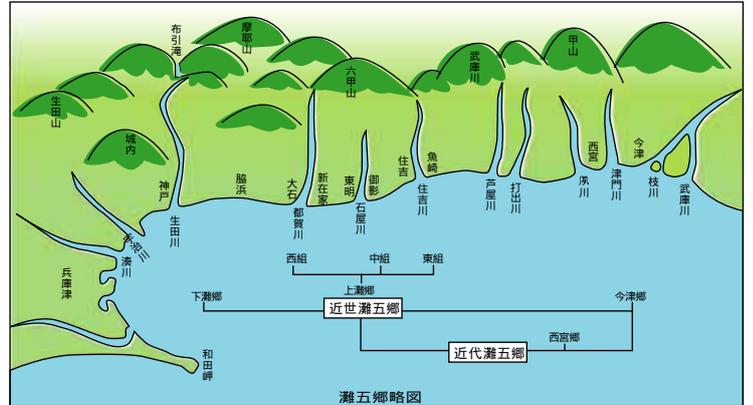
## 2-2-1. 情緒あふれる酒蔵の街



灘とは本来、波や風が強く、航海の困難なことという意味ですが、お酒の業界では、清酒の主産地である神戸市東部から西宮市今津に至る大阪湾に面した沿岸地帯を指します。

「灘五郷」は日本一の酒どころで、その歴史は江戸時代にさかのぼります。

なお、灘の酒の歴史を白鶴酒造資料館などで見学できます。



灘五郷略図



## 灘の酒造りに欠かせない四大要素を知ってる？

## 銘酒あるところ名水あり「宮水」

宮水が発見されたのは江戸時代後期の天保8年（1837年）。宮水は西宮市の海岸付近にある浅井戸から湧き、灘酒の味の秘密といわれています。それ以来、この宮水は、俗に「秋晴れする」といわれる灘の酒造りに大きく貢献しています。

## 六甲山の北側で作られる酒米「山田錦」

六甲山の北側で作られる山田錦は大粒で心白が大きいいため、精米しやすく、加えて山田錦によって作られた麴は糖化しやすく、それでいて米の形は崩れない、まさに灘の酒造りにピッタリの最高の酒米です。

## 匠の技「杜氏」

お酒造りには、巧みな技と人の和が不可欠です。灘で働く杜氏や蔵人は同じ兵庫の丹波や但馬などの出身者が多く、杜氏を中心とした連帯感の中で蔵ごとに酒造りの技を競い合ってきました。そして後継者へ伝えられる技の歴史が灘の酒を育ててきました。

## 自然の恵み「六甲おろし」

お酒を造るには低い気温が必要です。灘五郷は冬になると、六甲山から瀬戸内海の方に吹き降ろす六甲おろしをまともに受けます。はだをさすように冷たい六甲おろしは昔から蒸米を冷やすなどの作業に広く利用されてきました。

酒造の精米には、水車が利用されていました。江戸時代中期の天明（1780年ごろ）以降、水車によって高度に精白された白米を用いることにより、灘酒の質が一段と向上し、大量の酒米の精米に水車は不可欠となりました。



水車産業は酒造りを支えていたんだ！ 今はどうなっているの？

時代	水車産業の歴史
江戸時代中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1770年ごろ、菜種油<small>なたねあぶら</small>の油絞<small>しぼり</small>に水車を利用</li> <li>↓</li> <li>●1780年ごろ、盛んになり始めた酒造りの精米にも水車を利用</li> <li>↓</li> <li>●しだいに、水車産業の主力が酒造りの精米へ移っていった</li> </ul>
明治時代 (水車産業の全盛期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石油、電灯の普及で菜種油が使われなくなり、菜種油が衰退<small>すいたい</small>し始める</li> <li>↓</li> <li>●しかし、酒造りの精米は盛んであった</li> <li>●菜種油の代わりに灘目<small>なだもく</small>そうめんの製粉に水車が利用され始める</li> <li>●六甲山麓<small>さんろく</small>の川の中でも最多80輪の水車小屋が住吉川にあった</li> </ul>
大正時代末期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電力の普及</li> </ul>
昭和初期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●阪神大水害(昭和13年:1938年) ⇒水車産業が衰えるものの酒造りは健在</li> <li>●昭和54年(1979年) ⇒最後まで動いていた水車が火事で消失</li> <li>●阪神大震災 ⇒残っていた水車小屋跡<small>あと</small>の小屋も消失</li> </ul>



住吉川水系の水車  
(明治18年(1885年)2万分の1仮製図より;小林茂)

住吉川上流の水車場に米などを運びあげ、できあがった白米や小麦粉を運びおろすには、ごろた車やねこ車などが使われ、牛がそれをひいていました。通った川沿いの道はごろた道と呼ばれています。

牛は、時には足を踏み外して谷底へころげ落ちることがありました。住吉霊園にある丑供養の碑は、牛たちの冥福を祈って、村人が建てたものです。

また、白鶴美術館はくつるびじゅつかんの南側に、石や米を積んだ車が行き来した有馬道ありまみちの交通安全を祈って柿の木地蔵が建てられています。



米の運搬



丑供養の碑



柿の木地蔵



山田区民館横に復元された水車があるんだよ！ その水源を探してみよう！！

## 2-2-2. 御影石の名で知られる街



六甲南麓<sup>なんろく</sup>で採れる花こう岩は早くから良質の石材として利用され、花こう岩一般を御影石と呼ぶほど、世に知られています。

水車産業の石臼<sup>いしうす</sup>にも御影石が利用されていました。大正以降、セメントの進出で御影石の切り出しは衰えていきました。



みかげいし  
御影石



### 大阪城の築城にも使われたんだよ！

主産地の御影・住吉でいつごろから切り出しが始められたかはわかりませんが、豊臣秀吉<sup>とよとみ ひでよし</sup>の大阪城築城に際しては付近の山中から石が搬出され、また、京の三条・五条の大橋かけ替えに利用された石材も、この地で切り出されたとされています。



大阪城

荒神山<sup>こうじんやま</sup>・重箱山<sup>じゅうばこやま</sup>・五助山<sup>ごすけやま</sup>など採石場が開かれ、ふもとの石屋村（今の御影石町）は石工の村として栄え、御影の浜から船積みされた石は各地に売り出されていました。

住吉川の上流部に、石切り場から御影石を運んだ道とされる石切道<sup>いしきりみち</sup>が残っています。

石切道や住吉道を歩くと、御影石がゴロゴロと転がっていたり、石の階段や石畳が見られます。



石切り場跡の周辺の様子



石切道(入口)



石の階段



石畳



文禄三年の石仏

六甲山だけでなく、街なかでも御影石を見ることができます。住吉中学校の西に石垣<sup>うご</sup>に埋め込まれた古い地蔵<sup>こ</sup>があります。

その左端に「文禄三年二月吉日」と銘が刻まれており、この石仏<sup>せきぶつ</sup>が文禄三年（1594年）製とすれば、区内最古の在銘遺品<sup>ざいめいいひん</sup>です。



六甲山にあった石切り場を探しにいってみよう！！

2-2-3. 芸術・文学の街 

芸術文化をこよなく愛する私たちの街には、美術館・記念館の他、文学者の足跡が数多く存在します。ゆったりと街を散策し、「美と歴史」を味わってみましょう。

	こうせつびじゅつかん 香雪美術館	はくつるびじゅつかん 白鶴美術館
写真		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村山龍平翁の収集した日本美術、東洋美術の名品を公開</li> <li>・絵画、書籍、刀剣、仏像、茶道具など</li> <li>・探幽・光琳などの個性あふれる作品</li> <li>・高野切・継色紙といった古筆の世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白鶴酒造七代嘉納治兵衛氏が収集した美術品を公開</li> <li>・所蔵品の中心は中国の古美術品</li> <li>・日本の経巻、書、絵画、勾玉なども含まれる</li> </ul>
備考	開館時間：10:00～17:00（入館は16：30まで） 休館日：会期中無休（冬季・夏季閉館） 料金：大人700円（団体550円 20名以上） ：65歳以上・高・大学生450円（団体350円 20名以上） ：中学生以下 無料	開館時間：10:00～16:30（入館は16：00まで） 休館日：月曜日、年末年始、お盆 料金：大人/800円 ：65歳以上、大学・高校生/500円 ：中・小学生/250円

注意）閉館時間など変わっている場合がありますので、直接確かめてください（平成25年（2013年）3月時点）

私たちの街には有名な文学者が住んでいました。

大正12年（1923年）、関東大震災にあった谷崎潤一郎は、芦屋の知人宅に身を寄せた後、一旦、京都に住み、本山町北畑の本山第一小学校東隣に移り住みました。

それから約20年間この辺りで過ごし、「わが宿は菟原住吉芦屋瀉海のながめを南に見る」とこの地を愛し、多くの作品にこの辺りの風光を描いています。



私たちの街は、文学作品「細雪」の舞台なんだよ！

昭和7年（1932年）には、魚崎町横屋に移り、昭和11年（1936年）から6年間の出来事を描いた大作「細雪」はここで作られました。細雪には、昭和13年（1938年）の阪神大水害の体験が描かれています。谷崎文学と東灘の関係を記念して、彼の生誕100年にあたる昭和60年（1985年）に2つの文学碑が建てられました。



倚松庵



谷崎潤一郎が暮らした倚松庵を訪ねてみよう！！土曜、日曜は無料で入れるよ！！



いろんな文学作品に私たちの街がでてくるよ！

『増鏡』：作者不明

後醍醐天皇が隠岐へ流されるくだりにこの辺りの地名が多く登場します。

花は猶なほとまる主あるじに語かたららへよ我われこそ旅りに立ちわかるとも同じ日ひ、やがて妙法院みょうごういんの座主ざす尊たう  
澄法親王じやうほうしんも、讃岐さぬきの国くにへ御座おはします。・・・(中略)・・・ 昆陽野こやのより出いでさせ  
給たまひて、武庫川むこがは・神崎かぬさき・難波なには、住吉すみよしなど過すぎさせ給おんこころふとて、御心おほの内に思す筋すぢあるべ  
し。広田ひろたの宮みやの渡わたりにても、御輿こしとど止とどめて、拜をがみ奉たてまつらせ給たまふ。葦屋あしやの里すずめ、雀めの松原まつの・布  
引ひきの滝たきなど御覧ごらんじやらるるも、古ふるき御幸みゆき共思どもおほし出いでらる。・・・(略)

『革令紀行』 - 西国街道の往来 - : 大田蜀山人 (1749 - 1823)

西国街道の往来について、大田蜀山人が『革令紀行』(文化元年(1804年))の中で、次のように述べています。

『蘆屋川あしやがわをかちわたりししてゆけば、左ひだりに海うみちかくみゆ、右みぎに稲荷いなりの之の社やしろ自是これより三町さんちやうと糸え  
し碑ひあり、(中略)住吉川すみよしやや大なる川がは原はらなり、板橋いちはしあれどかちわたりす、人家にやあり、  
茶屋ちやありて賑にぎわへり、こここゝに兔原うはら住吉すみよしの四社よつあり、訛なまりて茨住吉いばらといふ・・・』

『住吉駅より有馬道』：幸田露伴 (1867-1947)

有馬道の往来について、幸田露伴が『まき筆日記』の中で、次のように述べています。

『(明治23年)五月六日の朝あしたいと夙とく起きいでて・・・神戸行きくふべの一番汽車いちばんに乗りて、  
有馬あまの温泉おんせんへと心こゝろざすまま大阪おさかをも突つと通り抜ぬけ、住吉すみよし々々々々と駅夫えきうの呼よぶ時とき心得こころたりと  
飛び下くだりけるが(中略)眺望てうぼうの興きやう少すくなからず、はや有馬あまに着つきたり・・・。』



どんな内容の文学なのか読んでみよう！！

## 2-2-4. 街の歴史を語る様々な「あかし」



私たちの街には、街の歴史を物語る「あかし」が、数多くあるんだよ！  
住吉川沿いを散策すると、タイムトラベルをすることができるんだよ！

写真下のチェック欄に 印を付けましょう。

遺跡・寺社など	ひがしもとめづかこふん 東求塚古墳	おとめづかこふん 処女塚古墳	ゆづるはしんじゃ 弓弦羽神社	本住吉神社
				
チェック				
記念碑 (災害にまつわる)	水災記念碑	ささめゆき ひ 細雪の碑	流石の碑(住吉学園)	慰霊碑(求女塚東公園)
				
チェック				
記念碑 (災害にまつわる)	つね そな 「常二備へヨ」 甲南大学	いれいひ 「慰霊碑・ブロンズ像」 東灘区役所	ゆうびむかん 有備無患	くび地蔵
				
チェック				
記念碑 (災害にまつわる)	いれいひ 「慰霊碑」 うおさき (魚崎わかばサロン)	「命の大切さコーナー」 (本山第二小学校)	さいけんとりい 再建鳥居 うおさきはちまんぐうしんじゃ (魚崎八幡宮神社)	いれい ひ 慰霊之碑 ゆづるはしんじゃ (弓弦羽神社)
				
チェック				

歴史を物語るあかし	ぶんろくさんねん いしづつ 文禄三年の石仏	すずめ まつばら ひ 雀の松原の碑	柿の木地蔵	はにわ ひろば 埴輪の広場
				
チェック				
歴史を物語るあかし	いしろうあん 倚松庵	山田区民館横の水車	水車広場	松なみ木
				
チェック				
歴史を物語るあかし	水車小屋跡		西国街道の碑 (本住吉神社)	ありまみち ひ 有馬道の碑
				
チェック				
歴史を物語るあかし	旧西国街道の碑 ふかえ (阪神深江駅南)	ととやみち ひ 魚屋道の碑 ふかえ (阪神深江駅南)	いしきりみち 石切道	本庄橋跡
				
チェック				

こうした街の歴史を物語る「あかし」には、それぞれ、当時の人々の「願い」や「いわれ」など、後世に伝えるべき背景があります。例えば、村のはずれの道端などで、赤い頭巾やよだれ掛けを着せられた石の地蔵さまを見かけます。あれは、亡くなった子どもが身に付けていたものを供養のために着せたそうです。



実際に歩いて、歴史の「あかし」を確かめて、印を付けよう！！

## 2-3. 私たちの街の祭りや地域の活動

東灘は情緒あふれる下町としての顔、臨海工業地域としての顔、だんじりをはじめとした伝統文化の生きた街としての顔など様々な街の顔をもっています。

私たちの地域を代表する住吉川は、六甲山最高峰付近に源を発し、いくつもの溪流を集めて南下、大阪湾へと注ぐ川です。

この清らかな川や六甲の自然を街と共に守り、伝え、育てていく様々な活動が行なわれているいきいきとした街です。



だんじり祭り

## 2-3-1. だんじりが駆け巡る街



東灘区の春の風物詩、だんじり。毎年5月には、各地区の趣向を凝らした合計31基のだんじりが区内を練り歩きます。

地域のだんじり保存会がだんじりを支え、だんじり1台につき、約200人もの方が力をあわせて運行させています。



## 何をお願いするお祭りなの？

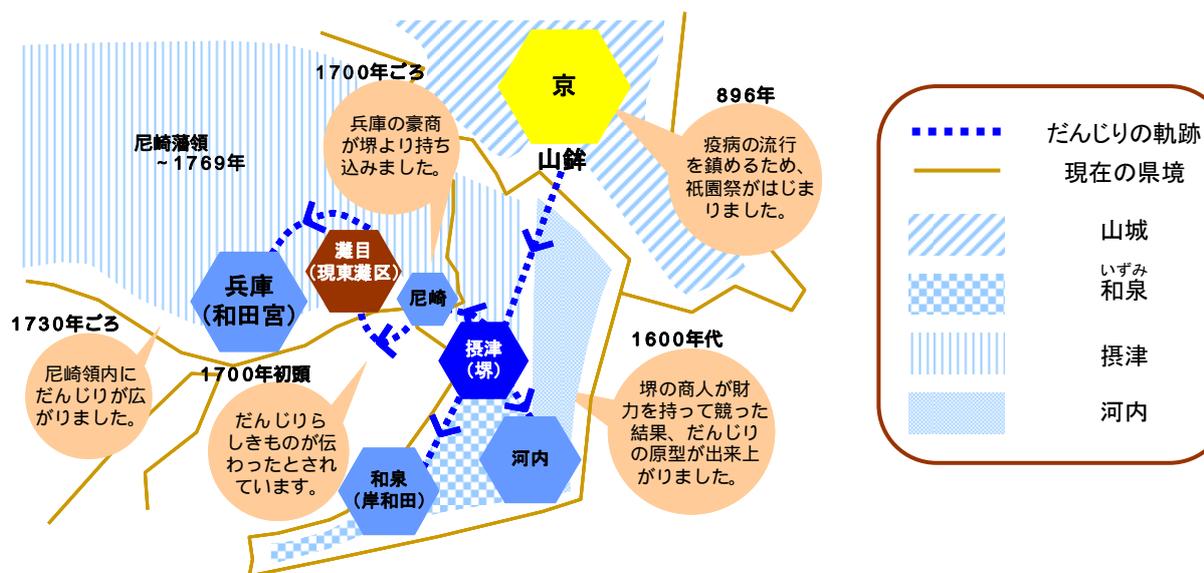
都市部では疫病退散を、農村部では収穫の感謝と祈願を込めた祭りとして広がりました。神戸にだんじりが登場するのは、江戸時代中期の享保年間（1716～1736年）ころだといわれています。

灘のだんじりは、摂津から尼崎を経由して広がり、江戸時代には各村落の祭りにだんじりが引き出されていたようです。

住吉の茶屋地区のだんじりは江戸時代後期の天保9年（1838年）の作で、現存する最古のだんじりのひとつですが、昭和54年（1979年）に大阪の天王寺から購入したもので、純粋に現存最古のだんじりは空地区（明治10年：1877年）のものといわれています。



だんじり祭りの様子



だんじり祭りのことをおじいさんやおばあさんに聞いてみよう！！

## 2-3-2. 清流「住吉川」での活動



住吉川は自ら形づくった扇状地を流れる天井川で、生活排水の流入がないこともあって、市内随一の清らかさを誇っており、市街地にもかかわらず蛸が生息するほどの清流です。夏には、川のなかに入って遊ぶ子どもたちの姿を見ることができます。



住吉川での親水活動



住吉川での憩い



## 「住吉川清流の会」って、何をするの？

住吉川の美化活動や広報啓発事業など様々な活動をしています。



## 住吉川絵画コンクール

小学生以下を対象に住吉川の風景などを題材とした絵画を募集。作品を審査した後、表彰し展示。



## ホタルの幼虫・カワニナの放流

毎年秋に、上流でホタルの幼虫とカワニナを放流。



## クリーン作戦

住吉川流域の美化清掃活動。毎年春と秋の2回実施。



## 親子水辺フェア

小学生以下を対象に水辺教室、ゲーム、クイズなどを行う。夏休み期間中に実施。



## 飼い犬パトロール

清流の道を巡回し、飼い主に対しマナー向上を呼びかける。



お父さん、お母さん、友達と参加してみよう！！

## 2-3-3. 様々なまちづくり活動



私たちの街には、どんなまちづくり活動があるのかな？

各団体のHP

#### 付近の小中学校など教育機関

住吉川での生き物調べや水質調査、住吉川を詠む描くなどの環境学習活動を行っています。

<http://www.konan.ed.jp/>

#### KOBE子どもエコクラブ

「KOBE子どもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で行う環境学習活動や環境保全活動を応援する仕組みで、子どもたちのグループに大人の方が1人以上加わっていれば、誰でも無料で参加することができます。

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/education/ecoclub.html>

#### 六甲山を活用する会

六甲山魅力再発見市民セミナーなど、六甲山自然保護センター（周辺施設）を市民活動の拠点として活かしながら、六甲山についての情報発信などを行っています。

<http://www.rokkosan-katsuyo.com/>

#### 六甲山と市民のネットワーク（RCN）

六甲山の魅力発見を図るための自然探索・自然案内をサポートする「自然探索系」や「エコツーリズム推進モデル事業」などを展開しています。

<http://www.rokkosan-rcn.com/>



（平成25年（2013年）3月時点）



みんなで、まちづくりの活動に参加してみよう！！